



ふくろう

博・学連携だより

令和4年1月



2月11日(金)から、令和3年度花巻市博物館企画展「ブドリのイーハトーブ災害ノオト～近世近代東北の災害史～」が始まりますので、その内容構成について花巻市内の小中学校教職員の皆様にお知らせします。

プロローグ 「グスコブドリの伝記」の前原稿「グスコブドリの伝記」の直筆原稿を期間限定で展示します(3/5～3/13)。

①**冷害と飢饉(ききん)** ヤマセ(東風)と呼ばれる夏の冷涼な気候に悩まされた東北地方太平洋沿岸地域は、飢饉の常襲地帯でした。この飢饉への対応と、その人災的側面について明らかにします。歴史の教科書に登場する「天明飢饉之図」の実物を期間限定で展示します(2/10～3/13)

②**疫病** 新型コロナウイルスの流行で再び注目を集めた疫病の脅威と、先進的な水際対策を行った後藤新平について紹介します。

③**雪害** 雪国の人たちは冬季の積雪に苦しめられてきました。このことを国会で声高に叫んだ松岡俊三と、積雪地方農村経済調査所での雪国の生活改善について紹介します。

④**水風害・土砂災害** 江戸時代に飢饉と並んで最も多く発生したのは、水害だと考えられています。花巻城も北上川の氾濫によって苦しめられ、ついには北上川の付け替え工事を行いました。近代に入っても、台風など風水害を完全に食い止めることはできていないのです。

Column 鉱山災害と鉱害 小坂鉱山について紹介します。平成時代まで稼働していた小坂鉱山は、明治時代以降に煙害が深刻化して森林が失われました。鉱山の人々に降りかかった災害や、山林が復旧するまでの様子を紹介します。

⑤**地震・津波** 地震は日本という国に住んでいる限り避けられない災害の一つです。沿岸地域では、それに伴う津波にも悩まされてきました。常襲地帯である三陸の津波について紹介します。また、明治三陸津波で沿岸調査を行った山奈宗真という人物をとりあげます。

Column 地震と景観 地震の発生により隆起や沈降なども影響し、新たな景観が生まれたり、美しい景観が失われることがあります。ここでは、主に文化象潟地震で失われた景観と、その保護活動を行った覚林和尚についても触れていきます。「象潟図屏風」を展示します。

エクストラ 東日本大震災 東日本大震災という巨大災害はあまりにも大きな犠牲と教訓を私たちに投げかけました。ここでは、津波被害を受けた福島県警パトカーの破片や、津波で止まった時計などの他、避難所での生活、原子力災害についても触れていきます。

⑥**火災** 江戸時代に水害と並んで多発したのは火災でした。特に、日本の家屋は木造建築が多く、燃え広がりやすかったのです。震災の二次災害ではなく、単独で発生した最後の都市大火である昭和酒田大火についてなど紹介します。

⑦**火山災害** 東北地方には多くの温泉地があり、岩手山や磐梯山などが近世・近代に火山災害を起こしました。影響は局地的であることがほとんどでしたが、信仰の対象が恐ろしい姿を見せた時に人々がどのように記録し、対応したのか展示します。

エピローグ 人々を飢饉から救うために、自らを犠牲にしたブドリ。その生き方から、私たちは何を学ぶことができるのでしょうか。

期間展示 戦災 避けることができた人災のひとつに戦争があります。空襲によって花巻が受けた被害を紹介します。

※実物資料が期間限定の場合は、他期間は複製を展示します。

テーマ展「博物館のひなまつり 花巻人形展」も同期間で開催されます。

1 2月の市内小中学校の花巻市博物館利用紹介

1 2月は、市内小学校3校からの出前授業の依頼がありました。依頼があったのは、八重畑小学校6年生、湯口小学校6年生、そして、東和小学校6年生で、内容は3校とも「戦争と花巻」でした。

出前授業「戦争と花巻」では、前半30分ほどはスライドを使って昭和20年8月10日の花巻空襲について解説を行います。花巻駅の北東の方角にある雄山寺付近の林に逃げ込んだ人達が、米軍機の機銃掃射や爆撃でたくさん亡くなったことや、当時の花巻の市街地が、爆撃で火災になり多くの被害を受けたことなどを解説します。

今年度の出前授業では、解説に合わせて実物大の500ポンド爆弾のパネル模型を見せて、児童に爆弾の大きさを実感してもらいました。

後半は、4つのテーブルに置いた実物資料を観察してもらいました。爆弾の破片を持ってみて、その重さにびっくりしたり、

「こんなのが爆発で飛んで来て体に当たったらやばいな。」

と、感想を話したりする児童もいました。

八重畑小学校での資料観
察の様子



湯口小学校での資料観
察の様子



解説に合わせて実物大の500ポンド爆
弾の模型を見せているところ 東和小学校

